

第 6 号 2021 年 9 月 発行 松阪地域 在宅医療・介護連携拠点

第14回 多職種勉強会を開催しました！



8/26(木)に「もしも」に備える 多職種連携～あわてない支援のための日ごろの取り組み～」をテーマに多職種勉強会を開催しました。今回も、第13回に続きオンラインのみの開催で、約132組の方々にご参加いただきました。

話題提供では、西井医院 院長の西井義典先生、松阪社協松阪支所訪問介護事業所 管理者の大仲久美氏・サービス提供責任者の迫間栄子氏、ヘルパーステーションアリス 管理者の小森貴美子氏の4名にご講義いただきました。司会進行は、松阪・多



左から小森氏、西井先生、大仲氏、迫間氏

気地区地域リハビリテーション連絡協議会 会長の木村圭佑氏にいただきました。日ごろ関わっている利用者さんの突然の病気や事故など“もしも”の場合に備えて、西井先生からは、自施設での取り組みやコロナ禍の状況を交えて、施設での看取りについてお話をいただきました。大仲氏、迫間氏、小森氏からは、訪問介護員としての視点や心がけ、感じていることなどを事例を交えてお話をいただきました。



日ごろのコミュニケーションの大切さや、そこから得られた情報を多職種で共有し、本人・家族の気持ちに寄り添った支援につなげている様子がとてもよくわかりました。

また、勉強会では、松阪市版エンディングノート「もめんノート」について、松阪市高齢者支援課 西山課長より紹介がありました。最期まで自分らしく生きるため、このようなノートの活用や話し合いなどを通じて、“もしも”に備えた取り組みが地域に広がっていくとよいと感じました。

- ・近年、老衰死が増えたことを知らなかったが、この勉強会で知れました。
- ・西井先生の「看取り」とは亡くなる時だけではないというお話が印象に残りました。
- ・看取りのケースで上手くいったケースもあればそうでないケースもあると思います。それらの事例をたくさん皆さんと知っていけば、松阪市内の多職種チームの向上につながるのではないかと思います。
- ・在宅生活を送る中、一番近い存在であり、少しの変化に気づけるのが訪問介護員だと思っておりますので、その気づきを多職種に発信をし、利用者様に寄り添っていただけたいと思います。
- ・利用者の方を支えたいという気持ちが言葉一つ一つにあらわれていたのが印象的でした。
- ・ヘルパーさんの事例から改めて多職種連携の大切さを感じました。(アンケートより抜粋)

多職種紹介リレー

多職種紹介リレーは、普段の関わりのおかげづくりになることを目的に、地域の専門職の方々にリレー形式で自己紹介をいただいています。

昨年、松阪地区医師会 会長 小林昭彦先生からスタートしたバトンは、松阪市民病院訪問看護ステーション 師長 市川千恵子さんに手渡されました。そして、次にバトンを受け取っていただいたのは、松阪社協松阪支所居宅介護支援事業所 介護支援専門員の高村聡さんです。



みなさんこんにちは。市川さんから受け継いだバトンをしっかりと次の方へとお渡しできるように筆を執りたいと思います。

私は介護保険が始まった2000年にこの福祉業界に携わることになり、2011年に松阪社協に就職し現在に至ります。松阪社協で勤めた10年間のうち7年間は居宅ケアマネジャーとして地域で活動させていただき、今までたくさんの人々に助けをもらい、シャイな私でも様々な繋がりが広がっていくこの仕事に魅力を感じております。



さて、私個人の事を紹介させていただきます。実は私…飛行機が大好きなんです。一番好きなのは空港などに飛行機を見に行くことで、大阪国際空港(伊丹空港)近くの千里川堤防が特にお勧めです。百聞は一見に如かずですが、着陸寸前の大型旅客機が上空を飛んでいく瞬間に、つい自分の首をすくめてしまうほどの迫力をみなさんにも体験していただきたいです。その迫力を味わうと何故かスッキリするというか、いろんなものが発散される何ともいえない爽快感を味わうことができると思います。気持ちよく県外へのお出かけができるようになりましたら、是非体験していただきたいスポットです。

さいごに、空港に足を運ぶとたくさんの航空業界に関わる職種の方を目にします。これらたくさんの職種が関わるチームが飛行機をサポートしているのだと思うと、自分達の仕事と重ねて考えてしまいます。いいチームがあってこそ、いい結果が生み出せるのだと。

自分の仕事に置き換えて考えると、私も利用者様や家族様の様々な思いを汲み取りながらよりよいチーム形成ができ、たくさんの人々に支えられ、そこに关わるよいケアマネジャーになれるよう頑張りたいと思います。



高村さんからバトンを受け取っていただいた方を次号で紹介いたします。お楽しみに。

「高齢者施設における救急対応マニュアル作成のためのガイドライン」

令和元年に開催された松阪市地域包括ケア推進会議で、高齢者施設における救急搬送の現状と課題についての意見交換をきっかけに、高齢者施設・救急隊・急性期病院におけるスムーズな情報共有の仕組みづくりについて、関係者間で協議を深めてきました。そして、「高齢者施設における救急対応マニュアル作成のためのガイドライン」と、参考様式として「高齢者施設における救急医療情報提供シート」が完成しました。5月に各関係機関、事業所等へ送付を行いました。



ガイドラインには、急変時対応で大切にしていきたいポイントや手順などが盛り込まれています。急変時は、つい慌ててしまい、何をすればよいか戸惑うことも多いと思います。利用者さんに日々関わる職員の方々が、落ち着いて対応できるよう、このガイドラインを効果的に活用して、各事業所でマニュアルを作成していただきたいと思ひます。

ガイドラインに関するお問合せやデータ請求は、松阪市高齢者支援課(0598-53-4099)までどうぞ。

第3回「わおん」川柳 *テーマ『スポーツ』

『スポーツ』をテーマに募集しました。自由な発想で川柳に思いを込めていただきました。ふっと笑ってしまうユニークな作品もありました。

いただいた作品については、今回初めて情報共有システム「すずの輪」内で投票を行い、入賞作品が決定しました。入賞作品をご紹介します。ご応募、投票ありがとうございました。

金賞

五輪婦中の
花の会話に
(ゆづの母)



銀賞

テ観
レ戦
特ピは
等が
席いち
(八四丸)ばん



銅賞

駅伝の
レレの
父の
(ハヤシライス)響く

銅賞

大会の
今も
忘れぬ
ドキ
(やまっしー)キ感



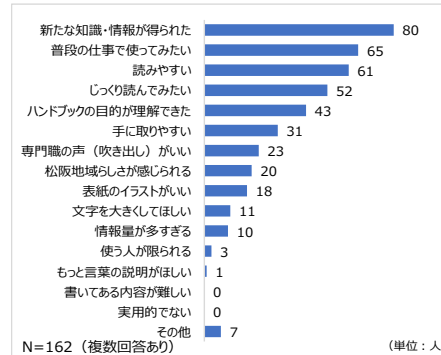
『医療と介護の連携ハンドブック』のアンケート結果について

令和2年12月に完成した『松阪地域 医療と介護の連携ハンドブック～本人の望む暮らしをささえるために～』は、医療や介護関係者との会議や多職種勉強会等を経て得られた意見をもとに連携の基本やスキルアップにつながるヒントをまとめたもので、地域の医療・介護の専門職で共有することを目的に作成されました。

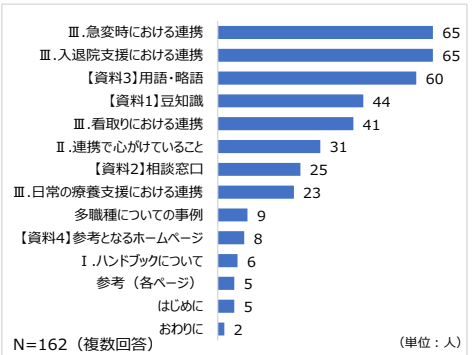


1月に松阪市・多気町・明和町・大台町のそれぞれの医療機関、介護事業所に向けて発送いたしました。そして、ご覧いただいた感想や活用方法について、同封のアンケートにて回答いただきましたので、その一部をご紹介します。

ハンドブックの感想



ハンドブックで印象に残った項目



- ・医療連携について体系的に学ぶことができ、解説や図説が分かりやすく、携帯するにも適している。
- ・カンファレンスの時に分からない用語が出てくることがあるので、ハンドブックに整理されていて助かる。
- ・新型コロナ感染時の松阪地域の医療と介護の連携について記載が欲しい。
- ・いい試みで、内容も適度で、わかりやすく良かった。自施設の勉強会やマニュアルにつけ加えさせてもらいたい。(アンケートより抜粋)

さまざまなかたちでハンドブックにご協力をいただき、ありがとうございました。今後も連携の一場面、ハンドブックをお役立ていただけたらと思います。

あとがき

あつという間に夏が過ぎ、秋はすぐそこに。月日が過ぎるのがほんと早いです。連携拠点は4年目を迎えました。わおんも第6号。これからもよろしくお願ひいたします。次回は冬頃を予定しています。

松阪地域在宅医療・介護連携拠点

〒515-0076 松阪市白粉町363番地
(松阪地区医師会館1階)

TEL:0598-25-3070 FAX:0598-25-3071

メール:ks-shien@city.matsusaka.mie.jp

◇月～金 9:30～16:00◇